

説明「全国を概観した地震動予測地図について」（概要メモ）

説明者：奥 篤史 文部科学省研究開発局地震・防災研究課課長補佐

地震調査研究推進本部が作成した「全国を概観した地震動予測地図」の説明が、資料に基づき行われました。

説明内容は、1. 地震の発生状況、2. 地震調査研究推進本部、3. 地震動予測地図の内容、4. 地震動予測地図の活用、5. 公立学校施設の耐震化状況となっています。以下に、その概要を紹介します。

### 1. 地震の発生状況

世界地図に地震の発生状況を記入した資料などにより、地震はプレート境界という限られた箇所で発生していること、日本は4つのプレートに囲まれ、プレートの境目に日本が位置しているため地震が多いこと、このため、日本に住んでいる場合は、どこでも地震が発生する可能性があること等が説明されました。

### 2. 地震調査研究推進本部

阪神・淡路大震災の教訓により作られた政府の特別の研究機関である地震調査研究推進本部の組織及び活動内容が説明されました。調査研究の推進については、①地震動予測地図の作成（本セミナーで詳細説明）、②リアルタイムによる地震情報の伝達（緊急地震速報）の推進、③大規模地震対策特別措置法に基づく地震防災対策強化地域及び周辺の観測等の充実、④地震予知のための観測研究の推進、の4点が述べられました。

### 3. 地震動予測地図の内容

地震動予測地図は、（1）確率論的地震動予測地図と（2）確率論的地震動予測地図の2種類から構成され、前者はある地域に強い揺れを感じる可能性はどれ位あるかを表したものであり、後者はある断層を特定したときにどれ位の強さで揺れるかを示したものとなっていることが説明されました。

確率論的地震動予測地図については、地震調査研究推進本部が重要なものとした全国の主要98断層及び海側にある海溝で起きる地震などを纏めて危険性を評価したものを段階的に色づけしていること、3%の確率とは1000年に1回であること、日本全国を1km四方に区切って一つ一つ評価していること、評価に当たっては、地盤の固さにより揺れ方が異なることも研究し評価していること等が説明されました。また、宮崎市は30年以内に震度6弱以上になる可能性が12%と高く、最も影響度の高いのは日向灘のプレート間地震であることが紹介されました。

確率論的地震動予測地図については、詳細法による日向灘地震の強震動予測結果等が紹介されました。

#### 4. 地震動予測地図の活用

地震動予測地図の活用については、地震に関する調査観測の重点化及び地域住民の地震防災意識の高揚に役立てること、建物の耐震、地震保険にも活用など、成果を防災・減災に役立てることなどが説明されました。

#### 5. 公立学校施設の耐震化状況

公立学校施設の耐震化状況について説明があり、耐震性なし又は耐震診断が未実施の建物が半数近く（45.3%）あること、早急に耐震診断を実施することが必要であることが指摘されました。また、宮崎県の耐震診断実施率は71.7%（全国平均67.9%）であること等が紹介されました。